

大型予算審査を体験して —審査員の着眼点—

情報学専攻

西野哲朗

目次

- 審査員としての体験
- 大型予算審査の流れ
- 書面審査
- ヒアリング課題の選定
- ヒアリング
- 合議審査
- 進捗評価
- 最後に

審査員としての経験

- 科学研究費委員会 審査・評価第二部会 情報学小委員会委員：基盤研究(S) の審査・評価 (2015～2016 年度)
- 戦略的創造研究推進事業(CREST) 研究領域「量子状態の高度な制御に基づく革新的量子技術基盤の創出」 領域アドバイザー (2016年度)

大型予算審査の流れ

- **書面審査**： ヒアリングの審査委員自身か、各提案の専門家が5～6名で審査する
- **ヒアリング課題の選定**： 10～12件程度
- **ヒアリング（面接）**： プレゼン10分、質疑応答10分程度
- **合議審査**： ヒアリング後、すぐに審議

書面審査の着眼点(1)

- 国際的に高い評価を得る可能性があるか
- 研究代表者、分担者は国際的に卓越した業績を挙げているか
- 学術的に重要な研究課題か
- 研究構想や研究目的が具体的か
- 応募額に見合った意義があるか
- 研究計画は十分に練られているか

書面審査の着眼点(2)

- 当初計画通りに進まないときの対応は
- 研究計画を遂行する能力があるか
- 独創性や革新性が認められるか
- 学術的な波及効果が期待できるか
- 幅広い意味で社会に与えるインパクト・貢献が期待できるか
- 他の研究資金との不合理な重複はないか

書面審査の減点ポイント(1)

- 基盤研究(A)との重複申請であり、それらを拡張した提案とされているが、内容は研究計画を含めてほぼ同一であり、どのような意味で拡張されているのかがわからない。
- 同じ研究代表者が、同じ内容で基盤研究(A)にも申請している。小規模な研究開発が成功してから、基盤(S)で採択すべき課題である。

書面審査の減点ポイント(2)

- 取り組む内容が各論にとどまっており、それらがどのように有機的に組み上げられるかが判らない。
- 研究組織に著しい偏りがあり、研究計画・方法に独創性や革新性は認められない。
- 初年度の研究計画は具体的だが、2年目以降の計画が不明確で、各年度に、どのような研究成果が得られる予定かわからない。

ヒアリング課題の選定

- 書面審査の評点の平均点順にソートされた課題を、評点の高いものから順に見ていき、ヒアリングに呼ぶ課題を決定していく。
- ヒアリングは1日で行うので、10件～12件を選定する。
- 書面審査委員の評点に甘い、辛いがある場合などは、ボーダー付近の課題については、申請書の内容にも踏み込んで検討する。

ヒアリング

- **研究代表者から研究内容の説明**（10分）：
時間配分がまずい代表者もいる。駆け足の説明にならないよう良くリハーサルしておく。
- **質疑応答**（10分程度）： 質問には、明確、かつ、簡潔に答える。回答時間が足りなくなる代表者もいる。
- **委員による審議及びコメントの記載**（10分）：
慌ただしい作業。印象に残るプレゼンを。

合議審査

- 各プレゼンに対する審査員の評点の**平均点**を、事務局がその場で集計する。
- プレゼンの平均点が高かった課題から順に、問題はないか、予算額は妥当かについて検討していく。
- **予算総額**に収まるところまでの課題を採択とし、それ以降を不採択とする。

基盤研究(S)の進捗評価

- 最終年度前年度にあたる研究課題について、3名程度の評価者(専門家)が評価意見書を作成する。
- 担当委員が研究進捗評価案を作成し、A, B, C等の評価を行う
- 書面で判断できない場合はヒアリングを実施
- 評価がCの場合には研究費の減額または、研究中止もあり得る

進捗評価の減点ポイント

- 研究目的の主要部分が達成されていない。（提案装置の実装を業者に発注できなかったとか、大学がスペースを提供してくれなかった等の苦しい言い訳も。）
- 他の予算で得られた研究成果を、基盤研究(S)の成果であるかのように報告している。
- 得られた研究成果が、申請時の提案とは明かに異なっている。

最後に・審査員の視点(1)

- 研究に潤沢な予算が必要であることは、審査委員は、全員、良くわかっている。
- そのため、**予算の重複**や、**過度の集中**は避けようとする。
- 大型予算を認めるためには、期待される**明確な研究成果**を、わかりやすく提示して欲しいと考えている。

最後に・審査員の視点(2)

- 審査委員が10人居ても、各研究課題の専門家は1～2名しかおられないので、期待される研究成果は**わかりやすいもの**にして欲しい。
- 例えば、「XXで世界記録を樹立する」とか、「XX装置を開発し、商品化を目指す」など。
- 本当は、論文数などの実績で評価するのではなく、**目の覚めるような斬新な研究提案**を聞いてみたいと思っている。

ご清聴、有難うございました。